

H24-D1-3 深度14.41~14.52m 薄片試料の写真の向き (No.103) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-168頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記 (青太枠)

No.103

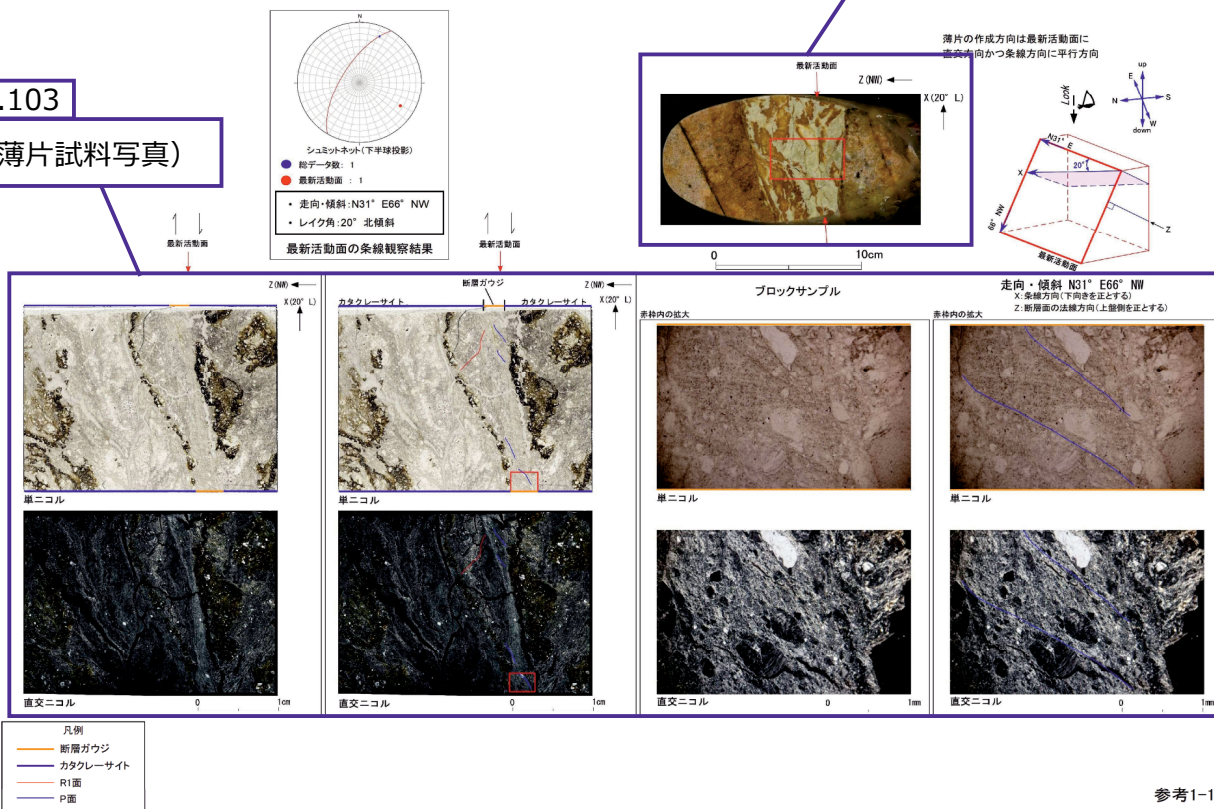
(ブロックサンプル写真)

H-4' 破碎帯 薄片試料観察 (H24-D1-3 深度14.47m)

H24-D1-3のボーリングコア(深度14.47m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

No.103

(薄片試料写真)



H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

No.103

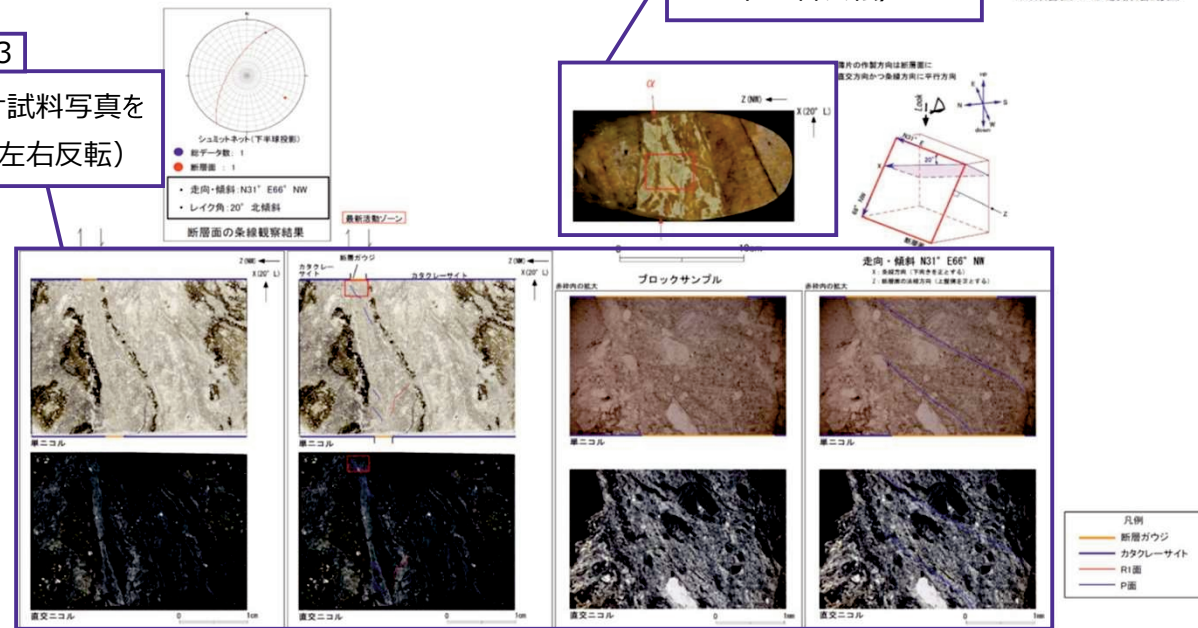
(ブロックサンプル写真を
上下左右反転)

※断面αは最新活動面

No.103

(薄片試料写真を
上下左右反転)

6-7-1135



第7.4.4.320図 (3) 破碎部性状 H24-D1-3 深度14.41~14.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・性状一覧表において、断層ガウジの幅を1.8cmに見直し

【理由】再観察に伴い、断層ガウジの幅を再計測した結果、従前の「1.9cm」を「1.8cm」に変更した

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 断層ガウジの幅を「1.8cm」に変更

H24-D1-3 深度14.41~14.52m 断層ガウジの幅 (No.104) を変更

従前

見直し後

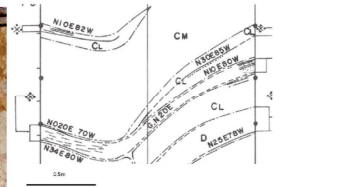
第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-162頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記 (青太枠)

14.H-1~f-b-4-6破砕帯
性状一覧表(6/13)

No.104
1.9cm

破砕帯名	総合 深度	破砕帯範囲 上境界深(下境界深)	走向	傾斜	破砕帯 幅	断層ガウジ 幅	断層角礫 幅	断層 性状	断層 方向	定位センサ		写真
										距離	水深	
H24-D1-3 (破砕帯)	14.41	14.52	N20E	a	1.9			非平滑	20L	-	右	14
H24-D1-5 (破砕帯)	10.45	10.50	N21E	82NW	4.0	0.1		非平滑	20L	正	右	10
H27-B-3 (破砕帯)	115.00	115.12	N20E	87W	2.0		フィルム状	無	S1L	-	-	115



幅20~30cmの小角礫状部からなる破砕帯で、灰白色粘土フィルムや黒色フィルムが挟まれている。(H-4)

凡例

←→	最新活動面
←→	破砕帯
—	断層ガウジ
○	粘土の膜在物が認められる箇所

【破砕帯】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から其の幅に換算した。
【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-162

破砕帯名	総合 深度	破砕帯範囲 上境界深(下境界深)	走向	傾斜	破砕帯 幅	断層ガウジ 幅	断層角礫 幅	断層 性状	断層 方向	定位センサ		写真	
										距離	水深		
H24-D1-3 (破砕帯)	13.84	14.08	N26E	77W	6.0			有		正	H-3d	13 14	
H24-D1-3 (破砕帯)	14.41	14.52	N21E	82NW	5.5	a	1.8	有	20L	-	右	H-4	14 15
H24-D1-3 (破砕帯)	34.23	34.52	N12W	88W	16.0		0.7	有	75L	正	-	D-1	34 35
H24-D1-3 (破砕帯)	52.13	52.28	N7E	70W	9.6		0.5	無	0	-	右	H-7a	52 53
H24-D1-3 (破砕帯)	56.88	57.24	N2E	89W	17.0		0.5	有	50L	正	右	D-35	56 57

No.104
1.8cm



※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
-(上記以外): データを取得していない箇所

凡例

←→	最新活動面
←→	破砕帯
—	断層ガウジ
—	断層角礫

第7.4.4.18図 破砕部性状一覧 (H24-D1-3)
6-7-1598

H24-D1-3 深度14.41~14.52m 断層ガウジの幅 (No.104) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を1.9cmと記載していたが、以下のことから、1.8cmが正しい値であるため、1.9cmから1.8cmに変更した。
- コアの再観察の結果、深度14.47~14.48mに分布する断層ガウジの幅としては1.8cmであった。
- コア観察カードには粘土の厚さ15~18mmの記載があり、従前提示していたデータである1.9cmは断層ガウジの区間長を真幅と誤って記載していたと推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-3 深度14.41~14.52m)

・実測した断層ガウジの幅は1.8cmである。

コア写真



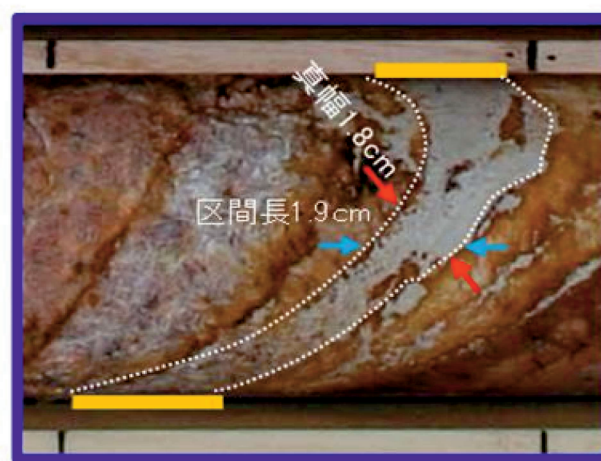
凡例

 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

該当箇所のコア観察カード

14.47~14.48m: Hc-2 (主断面・14.47m)
 上部60°、下部60°で、上部は斜的で下部はほぼ水平で連続。φ1~2mmの石英粒、φ2~3mmの5~10mm幅の3mm程度の平均的な合金圧縮(5Y/2)の軟弱粘土。厚さ15~18mm

↑
幅の記載

凡例

 : 従前の断層ガウジ幅
 : 変更後の断層ガウジ幅

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・性状一覧表において、断層ガウジの幅を0.7cmに見直し

【理由】再観察に伴い、断層ガウジの幅を再計測した結果、従前の「0.8cm」を「0.7cm」に変更した

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 断層ガウジの幅を「0.7cm」に変更

H24-D1-3 深度34.23~34.52m 断層ガウジの幅 (No.105) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-34頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記 (青太枠)

2.D-1破砕帯
性状一覧表(6/12)

破砕帯名	破砕帯番号	破砕帯深度 (m)	破砕帯厚 (m)	走向	傾斜	断層ガウジ の有無	断層ガウジの 幅 (cm)	断層ガウジの 傾斜	断層ガウジの 長さ (cm)	断層ガウジの 色	断層ガウジの 性状	断層ガウジの 備考	写真
ふげん溝 セツ	-	-	-	NNE	66W	40.0	1.5	前 +1	平滑	80L	正	-	
H27-D1-1 (断層45°)	①	59.82	59.85	N20E	80W	2.5	0.7	有	平滑	80R	正	-	
H27-D1-2 (断層45°)	②	61.29	61.69	NNE	89W	28.0	0.8	有	平滑	90	正	-	
H28-D18-2 (断層45°)	③	109.16	106.64	N10W	70W	7.8	2.2	有	平滑	-	正	右	110
H24-D1-3 (断層45°)	④	34.23	34.52	N11	-	-	0.8	有	平滑	75L	正	-	35
H24-D1-2 (断層45°)	⑤	12.38	12.97	N14W	70W	41.7	0.9	有	平滑	80R	正	-	13
H24-D1-4 (断層45°)	⑥	10.91	10.94	N12W	70W	1.8	1.8	有	平滑	80L	正	-	11

No.105
0.8cm

No.105
0.7cm

a

凡例
最新活動面 ← → : 破砕幅
断層ガウジ : 断層ガウジ
粘土の痕跡が認められる箇所 *1: 露頭 *2: 断面状

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
【平滑さ】
平滑：最新活動面が連続的なもの
非平滑：最新活動面が滑走するもの

参考2-34

破砕帯名	破砕帯番号	破砕帯深度 (m)	破砕帯厚 (m)	走向	傾斜	断層ガウジ の有無	断層ガウジの 幅 (cm)	断層ガウジの 傾斜	断層ガウジの 長さ (cm)	断層ガウジの 色	断層ガウジの 性状	断層ガウジの 備考	写真	
														断層ガウジの 幅 (cm)
H24-D1-3 (断層45°)	①	13.94	14.06	N20E	77W	6.0	有	有	有	-	正	-	13	
H24-D1-3 (断層45°)	②	14.41	14.52	N31E	60NW	5.5	有	有	1.8	有	20L	-	右	14
H24-D1-3 (断層45°)	③	34.23	34.52	N12W	89W	16.6	有	有	0.7	有	75L	正	-	35
H24-D1-3 (断層45°)	④	52.13	52.28	N7E	70W	9.8	有	有	0.5	無	0	-	右	52
H24-D1-3 (断層45°)	⑤	56.88	57.24	N2E	89W	17.5	有	有	0.5	有	50L	正	右	57

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
-(上記以外): データを取得していない箇所

凡例
最新活動面 ← → : 破砕幅
断層ガウジ : 断層ガウジ
カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを指示
断層角礫 : 断層角礫

第7.4.4.18図 破砕部性状一覧 (H24-D1-3)

H24-D1-3 深度34.23~34.52m 断層ガウジの幅 (No.105) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を0.8cmと記載していたが、以下のことから、0.7cmが正しい値であるため、0.8cmから0.7cmに変更した。
- コアの再観察の結果、深度34.39~34.40mに分布する断層ガウジの幅は0.7cmであった。
- コア観察カードには粘土の厚さ5~7mmの記載があり、従前提示していたデータである0.8cmは誤記であると推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-3 深度34.23~34.52m)

・実測した断層ガウジの幅は0.7cmである。

コア写真

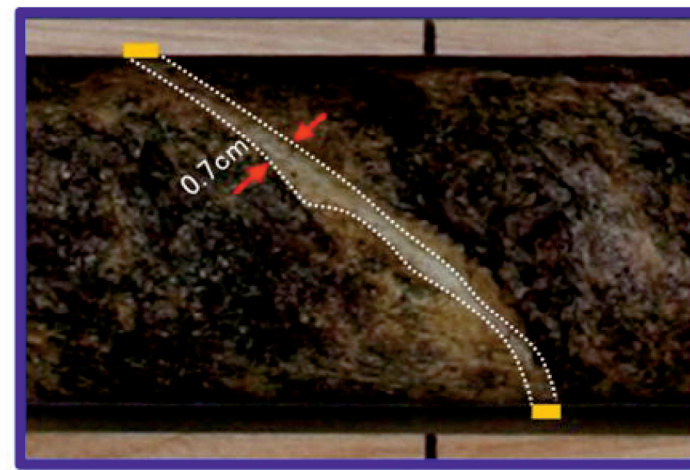


凡例



青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

該当箇所のコア観察カード

34.39~34.40m: Hc-1 (主断面: 34.39m)
 55°で連続的に分布する軟弱な白〜灰黄色粘土
 質で1-2mmの石英粒を含む。
 厚さは5-7mmである。

幅の記載

凡例

: 変更後の断層ガウジ幅